（別紙様式）　　（Ａ３判横）

令和２年度　学校自己評価システムシート（県立上尾特別支援学校）

目指す学校像	キャリア教育を推進し、豊かに生きる力を育てる学校

重点目標	１　個に応じた授業づくりとキャリア教育の視点を生かした教育課程の編成・実施による質の高い学校教育の充実 ２　地域との連携とセンター的機能の充実 ３　安心安全な学校づくりの推進（危機管理、不祥事防止と教職員の働き方）

※　重点目標は３つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
※　番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度		
	A	ほぼ達成（８割以上）
	B	概ね達成（６割以上）
	C	変化の兆し（４割以上）
	D	不十分（４割未満）

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局（教職員）	名

学校自己評価								学校関係者評価
年度目標					年度評価（２月１日　現在）			実施日　令和２年２月２７日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	【現状】「主体的・対話的で深い学び」の視点・観点を取り入れた授業づくりにおける各学部の課題を共有した。 【課題】「主体的・対話的で深い学び」の視点・観点を用いた本校の授業実践に積極的に取り組む必要がある。	「主体的・対話的で深い学び」の視点を活かした授業実践を行う。	①２年間の研究をもとに「主体的」「対話的」な活動の視点と「深い学び」の評価指標を策定する。（11月） ②各学部毎に①の内容を反映した学習指導案を作成し、実践する。また報告会を開催し、成果と課題を共有する。 （２月）＜研究部と学部＞	①「主体的」「対話的」な活動の視点と「深い学び」の評価指標を作成することができたか。 ②学習指導案を作成し授業実践することができたか。また、実践から成果と課題をまとめ、報告会で共有することができたか。				
	【現状】自閉症についての理解や指導方法について学ぶ機運が高まってきた。 【課題】自閉症理解と自閉症支援を基本として児童生徒への指導支援を十分に行うために、個に応じた教育活動の充実を図る必要がある。	自閉症支援の研修と実践を行う。	①特別非常勤講師と共に児童生徒の実態を見立て、成功体験を積重ねていく個に応じた具体的な指導支援を実践する。 （７月～）＜学部学年等＞ ②実践報告会等を通して、成果と課題を職員全体で共有し、課題解決から指導支援を改善する。（２月）＜学部学年等＞	①特別非常勤講師と共に児童生徒の見立てと個に応じた指導支援を実践することができたか。 ②実践報告会を開催し、成果と課題を職員全体で共有できたか。				
2	【現状】交流活動など、地域とのつながりを生かした学習活動を進めており成果が見られている。中学部で新たな校種と連携した取組を始めた。 【課題】交流及び共同学習の内容について交流校との連携を深め、さらに充実させるとともに、地域とのつながりを深め活動を広げる必要がある。また、日本の国際化を見据え、他国の文化に触れ、理解する態度を育成する必要がある。	地域とのつながりや地域での活動を大切にした教育活動の充実及び国際化を見据えた教育活動を構築する。	①交流校との連携を十分に図り、交流及び共同学習を行う。（小２回、中２回、実施予定）＜学部＞ ②地域で継続的に活動できる機会と活動場所を充実する。（６月～）＜学部・進路指導部＞ ③大学等と連携し、外国人ボランティアを受け入れる。（12月）＜中学部、高等部＞	①予定した交流及び共同学習を実施し、児童生徒の意識や行動に変容が見られたか。または、次年度への連携が図れたか。 ②事業所見学など、地域の理解を得て活動する機会を実施し、児童生徒の意識や行動に変容が見られたか。 ③聖学院大学と連携し他国の文化に触れる授業が実践できたか。				
	【現状】巡回相談を着実に行っており、地域からの信頼も深まっている。また、校内でのケース会の必要性も高い。 【課題】外部機関との連携及び校内外の支援をより進める必要がある。	校内外支援体制を充実する。	①巡回相談やケース会等の実施と校内外支援の情報共有並びに個々の課題への対応を行う。（通年）＜支援部・校内支援委員会＞	①近隣諸学校並びに校内において、質・量ともに適切な支援と情報の共有ができたか。（相談件数は目標２５０件、外部機関連携の在校生支援会議等を必要に応じ適切に開催）				
3	【現状】ヒヤリハット情報共有等の緊急時に向けた取組と防災への危機対応について整備をしている。 【課題】ヒヤリハットの情報共有と危機管理マニュアルの再整備を通して、危機管理意識の向上を図る必要がある。	危機管理マニュアルの再整備と緊急時対応への意識啓発を実施する。	①ヒヤリハット報告書を活用し、情報共有、提供を行う。 ②危機管理マニュアルの変更が必要な箇所を整備するとともに避難訓練等を実施する。 ③ICT 機材等の管理を徹底する。 ＜保健部・防災管理部・情報教育部＞	①次に生きるヒヤリハットの周知が十分できたか。 ②危機管理マニュアルを現状に合わせて変えることができたか。 ③ICT 機材等の日常点検、更に視聴覚教材点検を実施することができたか。				
	【現状】勤務時間以外にも仕事をしている教職員が多い。また、教職員の不祥事が起こらないように研修を行っている。 【課題】教職員の働き方改革の意識付け並びに不祥事防止への意識向上を徹底する必要がある。	働き方改革の意識の醸成と不祥事防止の注意喚起を行う。	①中・長期的な視点での仕事の削減、学校閉庁日の設定（８月）、ふれあいデーの定時退勤推奨を行う。（通年）＜学部・分掌・衛生委員会＞ ②不祥事防止研修会を２回行うとともに日頃からの注意喚起を行う。（９月、１２月） ＜衛生委員会＞	①必要性の有無を確認したうえで、働き方改革の意識づけができたか。 ②不祥事根絶に向けた教職員の意識付けができたか。				